

没後30年特別展

川崎長太郎の

歩いた路

みち

2015

10/10 (土) ~ 11/29 (日)

9:00~17:00 (最終入館16:30) 会期中無休

小田原文学館

神奈川県小田原市南町 2-3-4

入館料：大人250円、小中学生100円
(団体・障害者手帳をお持ちの方割引有)

アクセス：小田原駅東口から徒歩20分

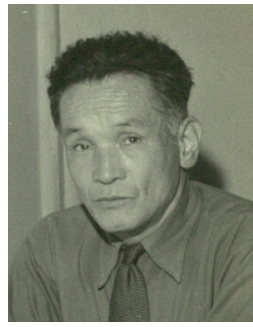
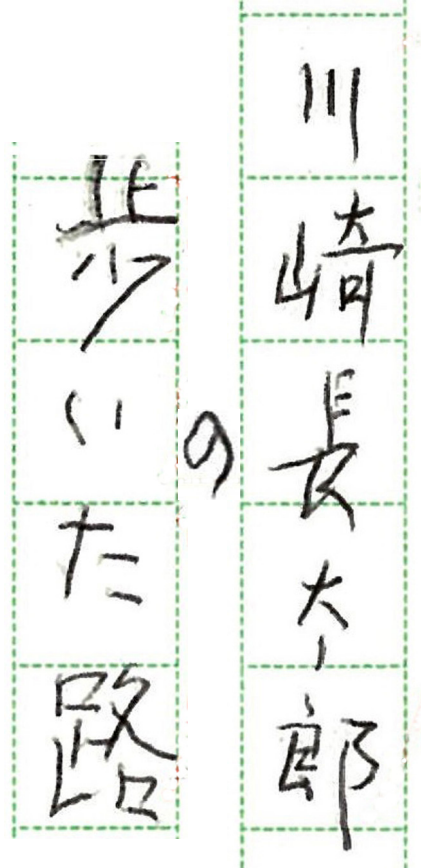
または小田原駅東口から箱根方面行バス
H・T・J・Z・U線「箱根口」下車徒歩5分

主催：小田原市立図書館 tel. 0465-24-1055

協賛：多摩美術大学芸術人類学研究所

協力：平出隆・青木淳・齋藤秀昭・大室佑介

没後30年特別展



川崎長太郎（明治34～昭和60）は、16歳で県立小田原中学（現・県立小田原高校）へ入学すると、文学に魅了されて文士を目指すようになり、その後中学を中退しますが、家業の魚商の仕事しつつ文学への志を持ち続けました。

やがて長太郎は私小説を執筆しながら、小田原と東京を行き来する生活を送ります。昭和13年に永住の覚悟で小田原に引き揚げると、以後約20年に渡る実家の物置小屋での生活が始まります。

戦後の長太郎は、小田原の路地裏に生きる人々を題材にした小説をいくつも発表。これら「抹香町もの」が大ブームとなり、川崎長太郎の名が広く知られる一方、市内散歩を日課とし、街の人々から「長さん」「川長さん」と呼ばれ親しまれました。

本展では、今年で没後30年を迎える川崎長太郎の「歩いた路」をたどりながら、その生涯や創作活動を、直筆原稿などの貴重な資料からご紹介します。

外を歩くだけでは、締めつけるような、退屈、寂寞、空虚がこぐらかった、切ない胸苦しきの始末がつかない、ある日のことであった。

「抹香町」より

学会員による展示解説

開催日：10月17日（土）・30日（金）
11月15日（日）
時間：午前11時～、午後1時30分～
（いずれも30分程度）
会場：小田原文学館本館 一階展示室
費用：文学館入館料のみ
申込：不要

ミュージアム・リレー 第219走

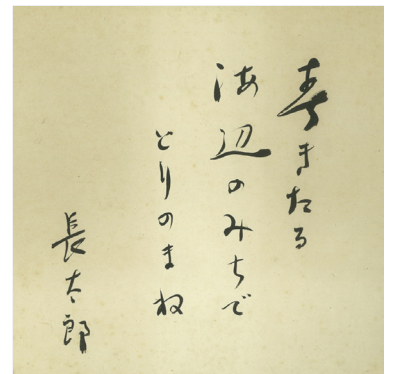
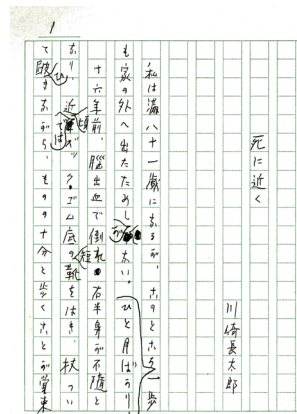
神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会加盟施設によるリレー形式の催しです。本展・常設展や建物の見どころをご案内します。

開催日：11月13日（金）
時間：午前10時～12時
会場：小田原文学館本館（受付）
費用：文学館入館料のみ
定員：30名

申込：小田原市立図書館まで電話
TEL 0465(24)1055
※前日まで受付

シンポジウム「川崎長太郎・小屋と世界」

開催日：11月23日（祝）
時間：午後1時～（予定）
会場：小田原市民会館第6・7会議室
入場料：無料
内容：パネルディスカッションなど
定員：170名
申込：往復はがきに住所・氏名・電話番号を記入し小田原市立図書館まで
〒250-0014 小田原市城内7-17 小田原市立図書館
※11月15日（日）消印有効



上：色紙「春きたる海辺のみちでとりのまね」（昭和39年）
左：原稿「死に近く」（昭和58年）

小田原文学館

〒250-0013
神奈川県小田原市南町2-3-4
電話 0465-22-9881



小田原文学館の建物は、明治政府で宮内大臣などを歴任した伯爵田中光顕の別邸として建てられたものです。本館は昭和12年築のスペイン風の洋館で、小田原出身・ゆかりの文学者の資料を展示しています。別館は大正13年築の和風建築で、「白秋童謡館」として小田原に滞在して創作活動を行った詩人・童謡作家の北原白秋を紹介しています。本館・別館ともに国の登録有形文化財となっています。

次回特別展「北原白秋」（仮）平成28年春予定

平成27年に生誕130年を迎えた北原白秋。柳川での少年時代や小田原での足跡など、生涯と作品を紹介します。